

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	作業療法評価学実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	夜間部3年		学期及び曜時間	前期	教室名	801/機能訓練室
担 当 教 員	三田 直人/椿原 一郎					
実務経験と その関連資格	<p>三田: 作業療法士として身体障害領域の病院で5年間勤務。 主たる疾患として、リウマチ、脳梗塞、パーキンソン病、頸髄損傷、大腿骨頭部骨折などのリハビリテーションに従事。 資格:音楽健康指導士 準2級、地域音楽コーディネーター、認知症ケア指導管理士。</p> <p>椿原: 作業療法士として身体障害系病院で勤務。 また、整形外科クリニックにおいて外来リハビリテーションにも従事。 作業療法学 修士課程 卒</p>					
《授業科目における学習内容》						
<p>知識面では、各種共通領域評価の意義・目的・実施手順を覚え・書き出すことが必要です。 技術面では、知識面をベースに手順通り再現できる模倣実践が主体となります。 情意面では知識面・技術面を踏まえ、学生間でFB・意見交換をして頂きます。</p>						
《成績評価の方法と基準》						
<p>実技試験40% 筆記試験40% 小テスト20%</p>						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
<p>標準作業療法学 作業療法評価学第3版 ベッドサイドの神経の視かた</p>						
《授業外における学習方法》						
<p>実技を主体に講義が進みます。実技練習は必ず実施して頂くようお願い致します。その際必要な検査機材は貸出申請書の記載提出が必要ですので計画的に動けるようお願い致します。</p>						
《履修に当たっての留意点》						
<p>・白衣着用を義務付けます。実技試験時にて白衣忘れは採点対象外になる事を十分に理解してください。・アクセサリーの類は特殊な物(例:結婚指輪など)を除き全て外すこと。評価実習前試験OSCEへと繋ぐ位置付けにある科目です。共通領域評価という分野・疾患を問わない部分での評価項目の実践が主となります。手順を基に実践して頂きますので、手順は必ず覚えてください。また評価であるため、情意教育が挟まれますので、学生間FBが重要となる事を意識してください。</p>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	目標①:各種領域別評価とは何かを学びます。		標準作業療法学 作業療法評価学第3版 上記教科書のみで問題ありません。	初年次にて学習したROM・MMTの復習をお願い致します。また、解剖学・運動学の知識を要しますので合わせて復習をお願いします。	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション 共通領域評価の種類とその実際				
第2回	授業を通じての到達目標	目標①:面接・観察の種類とその方法 目標②面接実施手順を覚える			自分自身の立ち居振る舞いなど、情意面(態度面)に関する振り返りをお願いします。(見学実習の振り返りでも可)	
	各コマにおける授業予定	測定前の心構え・面接法・観察法概				
第3回	授業を通じての到達目標	目標①:MTDLPIについての復習 目標②:面接実施手順に沿いながらMTDLPの聞き取りシート演習			生活行為向上マネジメント(MTDLP)についての復習をしてください。特に聞き取りシートに関して見返してください。	
	各コマにおける授業予定	面接法・観察法 MTDLPを基にした面接の実際				
第4回	授業を通じての到達目標	目標①:血圧・脈拍とは? 目標②:測定手順を覚える		血圧計 時計 ストップウォッチ	各動脈に関して復習をお願いします。体表からの触知が必要です。	
	各コマにおける授業予定	バイタル測定 血圧・脈拍の測り方				
第5回	授業を通じての到達目標	目標①:測定手順に沿いながら血圧・脈圧を測定する。 目標②:測定後の解釈		血圧計(アネロイド式) 時計 ストップウォッチ	各動脈に関して復習をお願いします。体表からの触知が必要です。	
	各コマにおける授業予定	バイタル測定 血圧・脈拍の測り方				

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	目標①:形態測定の必要性 目標②:形態測定の手順	巻き尺	骨指標(ランドマーク)が必要になります。見直しをお願いします。 骨名称・筋力など基礎解剖・生理学の復習をお願いします。
	各コマにおける授業予定	形態測定 四肢長 上肢・下肢の長さの測り方		
第7回	授業を通じての到達目標	目標③:測定手順に沿った実施 目標④:形態測定の解釈	巻き尺	骨指標(ランドマーク)が必要になります。見直しをお願いします。 骨名称・筋力など基礎解剖・生理学の復習をお願いします。
	各コマにおける授業予定	形態測定 周計 上肢・下肢の太さの測り方		
第8回	授業を通じての到達目標	実技試験1		1～7までに実施した検査測定の実技試験となります。
	各コマにおける授業予定	実技試験1		
第9回	授業を通じての到達目標	目標①:伸張反射の仕組み 目標②:測定手順を覚える 目標③:手順に沿い実施	打腱器 この回以降は、ベッドサイドの神経の診方を持参してください。	生理学での反射・反応の起序を調べてください。
	各コマにおける授業予定	反射反応 腱反射の意味・測定方法		
第10回	授業を通じての到達目標	目標①:病的反射とは 目標②:測定手順を覚える 目標④:それぞれの反射の解釈	打腱器	ベッドサイドの神経の診かたを参照に病的反射を調べてください。
	各コマにおける授業予定	反射反応 腱反射の意味・測定方法		
第11回	授業を通じての到達目標	目標①:表在・深部感覚の種類	感覚検査キット モノフィラメント	中枢神経・末梢神経に関する復習 主に解剖学・生理学的知識を要します。
	各コマにおける授業予定	感覚検査 知覚の意味 表在・深部感覚		
第12回	授業を通じての到達目標	目標①:各種知覚検査の実施手順 目標②:手順に沿った知覚検査の実施	感覚検査キット モノフィラメント	各種神経名称・伝導経路など多岐に渡るため、予めゆとりを持った復習を勧めます。
	各コマにおける授業予定	感覚検査 知覚の意味 表在・深部感覚		
第13回	授業を通じての到達目標	目標①:知覚検査の解釈	感覚検査キット モノフィラメント	検査キットの使用手順を必ず覚えてください。
	各コマにおける授業予定	感覚検査 知覚の意味 表在・深部感覚		
第14回	授業を通じての到達目標	実技試験2		9～13までに実施した検査測定の実技試験となります。
	各コマにおける授業予定	実技試験2		
第15回	授業を通じての到達目標	目標①:各種評価結果からの統合と解釈に関する演習		ここまでの評価実技を振り返ってください。また必要な知識の覚えなおしをして下さい。
	各コマにおける授業予定	評価実習に関するペーパー事例の検討		